



燦さんらん 爛

将輝学年24名が 晴れやかな旅立ち 第66期生 卒業式



3月に入ってからの寒の戻りで、しばらく寒い日が続いておりましたが、週明けからは穏やかで、春の訪れを感じさせる気候になってきました。

9日(土)に行われた本校第66期生の卒業式は、まだ寒さが続き、雪もちらつく中での開催となりましたが、来賓の皆様や保護者の皆様に見守られ、将輝学年24名が無事巣立つことができました。

昨年5月に新型コロナの法的位置付けが5類に引き下げられたことを受け、ここ数年は少なくしていた歌の場面を全て声出しOKとするなど、内容も以前の形に戻ってきておりますが、生徒たちは、それぞれの場面で精一杯の力を発揮していました。卒業生の歌声や返事、証書を受け取る態度など、短い練習期間であったと感じさせない立派なものでしたし、在校生もそれに負けない立派な態度でした。

在校生代表の送辞は、H.Aさんが務めてくれましたが、将輝学年との別れを惜しみつつ、心のこもった思い出と感謝の言葉を述べてくれました。そして、F.Sさんの答辞も、3年間の思い出を語るとともに、自分たちを支えてくれた多くの人たちへの感謝の気持ちに満ちたものでした。



進行は大変スムーズで、予定よりもだいぶ短い式になりましたが、全校で成功させようとする気持ちがあふれるよい式になったと思います。



先生方とともに歌でお別れ



教室に入りきれない保護者の方は、廊下から見届け

3A教室の黒板には、Y先生の力作が→



最後の学活



保護者の皆さんに、感謝の手紙をお渡ししました。



歓送の集い



外は雪のため、体育館で集いを行いました。

在校生、卒業生が互いにエールを送り合い、卒業生の門出を祝いました。

